

② - 1 森林を活かす都市の木造化等促進総合対策事業

流通チャネルの多角化による北海道上川地方産広葉樹等の需要拡大

取組成果

- ◆ これまで一般材としての活用が少なかったトドマツ認証林に自生する広葉樹についても、丁寧な選別や小規模需要者への供給機会の提供等により木材としての価値向上が図られた。
- ◆ 展示会では試作広葉樹家具等への好意的な感想が多く得られ、広葉樹の魅力を多くの人にPRすることができた。さらに、当該製品を切り口として、出材元の認証森林及び認証制度、他の森林認証製品に対する関心・理解が得られた。

事業概要

- ◆ 実施地：北海道下川町
- ◆ 事業実施主体：上川地域水平連携協議会
- ◆ 連携機関：下川町、下川町林業林産研究会、北海道立総合研究機構林産試験場、株式会社ハギヤ、(一社)北海道林産技術普及協会
- ◆ 事業実施年度：R5

取組のポイント

- ◆ 多様な主体が連携し、トドマツ認証林の伐採に伴い出材され、これまで低質材として扱われてきた広葉樹の中から、形状等の良いものを選別し、需要者へ供給する方法を検証。
- ◆ 多品種・小ロットでの出品や、小規模事業者の参画が可能な「競り売り」による広葉樹材の確保、試作した家具等の展示会出展を通じた多様な需要者へのPRなど、流通チャネルを多角化。



【トドマツ認証林から出材し、選別した広葉樹の競り売り】

取組内容

広葉樹材の流通チャネルの多角化

- ◆ トドマツ認証林の主伐時に出材された広葉樹(シラカバ、クルミ、タモ丸太)や別途入手したハンノキ丸太※を活用。
- ◆ 家具会社等に依頼し、上記広葉樹丸太からスツール、テーブル、カッティングボードを試作。
- ◆ 試作品を北海道産木材製品ブランド「HOKKAIDO WOOD」に登録、ロゴマークを付して「WOODコレクション(モクコレ)2024」などの展示会に出展。

※ 本取組のトドマツ認証林由来ではないが、林道沿いに多く自生していること、大宗がパルプ材利用であること、多様な広葉樹の活用が重要であることを踏まえ、一体的に検証することとした。



【広葉樹製品試作品】



【展示会の様子】

② - 2 森林を活かす都市の木造化等促進総合対策事業 内装材の商品開発を通じたナラ枯れ材利活用の検討

取組成果

- ◆ ナラ枯れ材を活用した土足用フローリングの商品化に係る課題を整理し、それらを踏まえたサンプル品を作成することができた。
- ◆ サンプル品を公共建築物で展示することにより、ナラ枯れ材活用の意義や製品の魅力の普及に取り組み、宮城県内製材所から広葉樹製材を再開したいとの問合せがあるなど、地域の広葉樹利活用の機運向上に貢献した。

事業概要

- ◆ 実施地：宮城県仙台市
- ◆ 事業実施主体：(株)仙台木材市場、守屋木材(株)、(有)寺島木材、(株)佐藤製材所、ヤマモト木材(有)、宮城県森林整備事業協同組合
- ◆ 協力者：宮城県、仙台市、朝日ウッドテック(株)ほか
- ◆ 事業実施年度：R5

取組のポイント

- ◆ 宮城県内でもナラ枯れの被害が拡大してきたことから、川上～川下の関係者が連携し、伐採及び丸太の移動時期を県と調整するとともに、移動範囲を限定するよう県内で製品加工まで行うなど、ナラ枯れの被害拡大の防止に配慮。
- ◆ これまで活用されてこなかったナラ枯れ材の利用に賛同するフローリングメーカーと連携。



【ナラ枯れ材の原木】

取組内容

広葉樹を利用した商品の検討

- ◆ ナラ枯れ材を使用したフローリングの商品化に向け、フローリングメーカーと突き板サンプルの作成について合意。
- ◆ フローリングメーカーも交えた製材検討会により突き板原板の製品検査を行い、製造上の課題※を整理。
- ◆ 課題を踏まえ、表面の塗装により意匠の異なるサンプル品を作成し、両者の比較及び公共建築物における展示を実施。

※加工表面に穿入痕が見られる、ナラ枯れ被害後に時間が経過すると原木の辺材部分は腐れがひどくなり使用できなくなるなど。



【多様な主体による製材検討会】



【ダーク色塗装(左)、クリア塗装(右)】